

山都町清和蘇陽地区義務教育学校設置に係る説明会

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 資料説明
 - (1) これまでの経緯について
 - (2) 義務教育学校について
 - (3) 候補地について
 - (4) 開校に向けた検討事項
- 4 質疑応答
- 5 閉 会

1 これまでの経緯 ～ 子どもたちの学びを将来へつなぐために ～

・令和元年から学校規模適正化の検討を進め、義務教育学校の設置を決定しました。

令和元年度～3年度

山都町学校規模適化検討委員会(計8回)

山都町学校規模適正化基本方針 策定(義務教育学校の設置を決定)

- ・清和・矢部・蘇陽地区に各1校ずつ計3校の整備を計画
- ・施設の老朽化を鑑み、清和→矢部→蘇陽の順で整備

令和4年度～5年度

清和地区義務教育学校設立準備委員会(計7回)

- ・米生地内を整備予定地として諸調整を開始
- ・令和5年7月の豪雨により、整備予定地が浸水
- ・浸水及び当初想定以上の児童生徒数の減少により、整備計画の見直しを検討

令和6年度

令和6年9月 義務教育学校整備方針の変更

- ・清和蘇陽地区 1校、矢部地区 1校

整備方針の変更に伴い、各地区住民説明会及び各保育園、小中学校保護者説明会を開催

令和7年度～

清和蘇陽地区義務教育学校設立準備委員会を設置し、具体的な計画に着手

2-1 義務教育学校とは ～ 9年間を通して学びと育ちを切れ目なく支える ～

	義務教育学校	小中一貫校
教育課程	9年間を通したシームレスな教育課程	小学校6年間、中学校3年間
教育体制	学校として1人の校長 教職員組織が1つのため、教育理念・方針等の共有が容易	小学校、中学校それぞれに校長 教職員組織が2つとなり、教育理念・方針等に出る可能性

異学年交流・複式学級の解消

異学年交流により、下級生への思いやりの心や、上級生へ憧れの気持ちなどが醸成され、精神的な成長や社会性の育成に繋がります。



9年間を見通した継続的な支援

9年間を見通し、同じ理念、指導方針に沿って運営するため、学習と成長を共有し、必要な支援等につなげやすくなります。

中1ギャップの緩和

9年間で4年-3年-2年などの区切りにすることで、学習・生活の変化をなだらかにし、中学課程進級時の不安を緩和できます。



地域資源を生かした特色ある学び

清和文楽・天文台・神楽・火伏地蔵祭り・通潤橋など地域資源を活かした特色あるカリキュラムが行えます。



専門課程の早期導入

中学校教諭による乗り入れ授業により英語や音楽などの専門的な授業を、低学年から学べる環境を整えます。



社会対応力の向上

ICT活用能力、英語教育、主体的に学ぶ力など、多様化する社会に対応できる力を9年間を通して身に付けられる環境を整えます。



2-2 義務教育学校で懸念されること ～子供たちの不安解消に向けて～

人間関係の固定化

一般的に小中一貫となった場合、人間関係の固定化が懸念されますが、現在山都町では1学年1クラスであり、中学校に進級しても同じ顔ぶれが続くため、義務教育学校に伴う懸念点としては考えにくいと思われます。

また、統合に伴う人間関係の変化の対応については、統合前の学校間交流やスクールカウンセラー等の配置など、今後の設立準備委員会等の中で検討を進めます。

成長機会、気持ちの切替えの機会の減少

前期(小学)課程6年時の卒業式がなく、気持ちの切替えやリセットが難しいこと、また9年制の場合、最上級生である8、9年生が生徒会長などを務める場合が多く、6年時でのリーダーシップを発揮できる機会の減少などが懸念されます。

今後、設立準備委員会や専門部会で検討する事項になりますが、6年時の役割の導入や後期(中学)課程への進級式、7年生からの制服の導入など行うことで、対応可能と考えます。

2-3 山都町が目指す義務教育学校

山都町が目指すのは、単に学校を一つにまとめることではありません。大切なのは、子どもたちにとってより良い学びの環境を整えることです。

義務教育学校の設置を通じて、学力の向上、豊かな人間性、地域への愛着、将来の地域を担う力を育てていきます。また、ICTや話せる英語力など多様化する社会に対応できるチカラも育めるよう魅力ある学校づくりを行っていきます。

山都町では、令和7年度より各保育園、小・中学校保護者、地域代表者、主任児童委員、学識経験者による「山都町清和蘇陽地区義務教育学校設立準備委員会」を開催し、清和蘇陽地区義務教育学校の開校に向けて準備を進めています。

3-1 整備候補地について

山都町教育委員会では、整備期間の短縮、用地取得期間及び整備費の抑制の観点から既存施設の活用を検討しました。

また、小学校校舎に中学校の専門教室を新設するよりも、中学校の既存機能を核として、小学校の生活空間を追加する方が、整備に係る期間や費用を抑制できると考えます。

- ・専門教科の施設がそろっている(美術室、技術室、家庭科室、武道場など)
- ・既存建物の面積が広く転用しやすい(体育館、給食室)
- ・大規模行事や部活動に対応しやすい(テニスコート、野球グラウンド・ナイターなど)

以上の理由により、清和中学校及び蘇陽中学校を候補地として検討しました。

3-2 比較結果の概要

候補地2案について、敷地の活用・配置、駐車場確保、スクールバス運行拠点、将来の施設拡張性、防災拠点としての活用の5項目について比較検討しました。

比較項目	清和中学校		蘇陽中学校	
築年数	○	築 53 年(昭和 48 年建設)	○	築 46 年(昭和 55 年建設)
敷地活用 施設配置	○	敷地面積:16,489 m ² 活用は可能だが、既存施設の配置状況を踏まえた詳細検討が必要。 将来、施設等を整備する際の拡張性に課題が残る	◎	敷地面積:45,088 m ² 敷地に余裕があり施設配置の自由度が高く、校舎、グラウンド、駐車場等を一体的に検討しやすい。 将来の施設拡張性が高い。
駐車場確保	△	職員、来客用の駐車台数を確保できるか検証が必要。 清和支所の活用が可能だが、台数の確保に課題が残る。	◎	職員・来客用駐車場は学校敷地内に確保でき、イベント時は蘇陽支所敷地を活用できる。
スクールバス 運行拠点	○	運行拠点として対応は可能。 児童生徒の乗降場所やバス待機スペースの確保が必要。	◎	蘇陽支所敷地内のバスターミナルを活用し、発着、待機、運行管理を行いやすい。 バス乗降場所、歩行者動線、来校者車両動線を分けて計画しやすい。
防災拠点としての活用	○	清和支所と連携し防災拠点として活用可能。 急傾斜地等に面しており、検討が必要。	◎	蘇陽支所及び山都消防署蘇陽出張所と近接し、国道に隣接していることから資材搬出入も容易。 平地にあり大雨、地震時等の安全性が高い。

※◎:特に優れる、○:対応可能、△:課題あり

清和中学校



蘇陽中学校



3-3 総合評価・教育委員会案

義務教育学校では、今後山都町の子ども達が安心して学び、成長する場としてより良い学びの環境を整えることが必要です。

そのため、候補地の選定にあたっては、現在の施設活用だけでなく、将来の教育環境、通学環境、災害対応、地域連携までを含めて総合的に判断する必要があります。

蘇陽中学校案は、敷地の広さ、駐車場の確保、スクールバス発着拠点としての活用、イベント時における蘇陽支所敷地の活用、将来の施設拡張性、防災機能との連携など、多くの面で優位性があります。

また、清和・蘇陽どちらの地区に設置したとしても校区が広域化しますので、通学手段等については丁寧に検討する必要があります。

以上を踏まえ、教育委員会としては蘇陽中学校を整備地として、具体的な施設配置計画、駐車場計画、スクールバス運行計画、安全対策等の検討を進めることが望ましいと考えます。

4 開校に向けた検討事項

今後は、義務教育学校設置準備委員会と別に各専門部会を設置し、各種検討事項について協議を進めていきます。一例としては下記のとおりです。

教育関係	授業カリキュラム、年間指導計画 学校行事、事前の交流活動 必要教具、備品等 教職員組織及び事務経理 など
学校生活・保護者関係	児童生徒指導(校則や学校生活の決まり事) 制服、体操服、通学バッグ、学用品 統合に伴う児童生徒の学校生活及び心理的支援 児童・生徒会活動 放課後活動(部活動、学童) 通学関係(スクールバス路線、乗車条件) PTA組織、行事関係 など
開校・閉校準備関係	学校名、校章、校旗、校歌等 開校に係る記念事業 閉校に係る記念事業 など

令和8年度～令和14年度 清和蘇陽地区児童生徒数見込み

清和小	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
1年	6	14	5	4	4	0	3
2年	13	6	14	5	4	4	0
3年	9	13	6	14	5	4	4
4年	15	8	13	6	14	5	4
5年	12	17	8	13	6	14	5
6年	11	12	17	8	13	6	14
合計	66	70	63	50	46	33	30

蘇陽小	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
1年	3	2	4	3	5	5	2
2年	1	3	2	4	3	5	5
3年	8	1	3	2	4	3	5
4年	6	8	1	3	2	4	3
5年	9	6	8	1	3	2	4
6年	11	9	6	8	1	3	2
合計	38	29	24	21	18	22	21

蘇陽南小	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
1年	10	8	7	5	5	6	0
2年	11	10	8	7	5	5	6
3年	19	11	10	8	7	5	5
4年	14	19	11	10	8	7	5
5年	12	14	19	11	10	8	7
6年	17	12	14	19	11	10	8
合計	83	74	69	60	46	41	31

清和中	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
1年	18	11	12	17	8	13	6
2年	16	18	11	12	17	8	13
3年	10	16	18	11	12	17	8
合計	44	45	41	40	37	38	27

蘇陽中	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
1年	20	28	21	20	27	12	13
2年	28	20	27	18	20	25	14
3年	29	28	20	27	18	20	25
合計	77	76	68	65	65	57	52

複式学級基準							
小学校	2個学年を合わせて16人以下 (但し、1年生を含む場合は8人以下)						
中学校	2個学年を合わせて4人以下(熊本県基準)						

※網掛け部は複式学級となります。
全児童生徒数で分けしているため、支援学級との兼ね合いで
本表より早く複式学級になる可能性があります。

清和蘇陽地区 合計児童生徒数

		R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
小学校	1年	19	24	16	12	14	11	5
	2年	25	19	24	16	12	14	11
	3年	36	25	19	24	16	12	14
	4年	35	35	25	19	24	16	12
	5年	33	37	35	25	19	24	16
	6年	39	33	37	35	25	19	24
中学校	1年	38	39	33	37	35	25	19
	2年	44	38	38	30	37	33	27
	3年	39	44	38	38	30	37	33
合計		308	294	265	236	212	191	161

既存スクールバス路線ごとの所要時間

時 間等 路線名	現状路線							統合後	
	発	小学校	着	時間	中学校	着	時間	清和中	蘇陽中
郷野原線	7:06	清和小	7:47	41分	清和中	7:51	45分	40分	40分
鶴底線	7:25	清和小	7:56	31分	清和中	7:49	24分	24分	37分
川口線	7:16	清和小	7:56	40分	清和中	7:49	33分	33分	46分
木原谷線	7:20	清和小	7:48	28分	清和中	7:44	24分	24分	40分
緑川線	7:25	清和小	7:46	21分	清和中	7:52	27分	22分	36分
野原線	7:15	蘇陽小	7:56	41分	蘇陽中	8:00	45分	53分	42分
大見口線	7:28	蘇陽小	7:56	28分	蘇陽中	8:00	32分	40分	29分
上差尾線	7:22	蘇陽小	7:51	29分	蘇陽中	7:55	33分	41分	30分
下山線	7:27	蘇陽小	7:56	29分	蘇陽中	8:00	33分	41分	30分
滝下線	7:45	蘇陽小	7:52	7分	-		-	20分	7分
花上線	7:38	蘇陽小	7:56	18分	蘇陽中	8:00	22分	30分	20分
大野線	7:38	-		-	蘇陽中	7:57	19分	20分	19分
馬見原線	7:20	蘇陽南小	7:47	27分	蘇陽中	8:04	44分	40分	40分
神ノ前線	7:31	蘇陽南小	7:46	15分	-		-	18分	30分
菅尾線	7:20	蘇陽南小	7:57	37分	-		-	40分	別路線と 統合

※既存路線を利用した場合の所要時間です。

※今後、全体的な路線の組み直しにより、所要時間短縮の検討を行います。

(案)郷野原線、鶴底線、川口線を組み替えた場合の所要時間

路線①

バス停	所要時間
牛ヶ瀬公民館	0:00
牛ヶ瀬	0:04
鶴底	0:09
小幡	0:10
川口	0:13
蘇陽支所	0:37

路線②

バス停	所要時間
日名田	0:00
小迫入口	0:02
花高原	0:05
JA朝日	0:09
井無田無田	0:16
井無田轟	0:20
組崎	0:22
蘇陽支所	0:40

路線③

バス停	所要時間
越尾	0:00
大矢	0:08
伊良野原	0:13
原野郷	0:15
郷野原	0:18
長成	0:24
蘇陽支所	0:36

所要時間 約37分

走行距離 18.0km

所要時間 約40分

走行距離 22.0km

所要時間 約36分

走行距離 16.0km

※組替え案については、スクールバス運行者と検討を行います